

教員についての基本情報

教員名	中本 謙
担当教科と分野	国語科 日本語学分野
研究分野	日本語学、琉球語（方言）
担当授業	日本語学概論、日本語学講義Ⅰ、日本語学講義Ⅱ、日本語学特講、日本語学演習、国語科教材研究Ⅳ（日本語学関連分野）など
授業についての一言	1、2年時では日本語とはどのような言語なのか、広く見渡した後、日本語の音声、文法、語彙について日本語史、琉球語と比較、対照しながら理解を深めます。3年時からの「特講」や「演習」ではIPA（国際音声記号）を習得して、記述言語学の方法を学びつつ琉球列島の方言も含めて日本各地の方言を通じて日本語を考究します。



研究の内容

危機的な状況にある琉球列島言語の調査研究をしています。臨地調査によって得られた資料は、日本語史等と比較研究することにより琉球語の形成過程を明らかにすることを目的としています。

また一方では沖縄県の小中学校に配布されている『しまくとぅば読本』、沖縄県の公立高校に配布された副読本『高校生のための「郷土のことば」～沖縄県(琉球)の方言～』の作成に関わる等、琉球語の保存・継承に向けた取り組みにも携わっています。

これまでに研究室で取り組まれた卒業研究

日本語学研究室では、研究対象とする地域の方言を深く掘り下げることで、日本語の研究を深めています。これまで、記述言語学の方法をベースに琉球列島をはじめ、日本全国の方言に関する卒業研究がなされました。例として近年提出された卒業研究テーマをいくつか示します。

- ・「島根県出雲方言の条件表現の研究」
- ・「鹿児島県肝属郡錦江町方言の語彙研究—親族語彙・人称代名詞を中心に—」
- ・「沖縄県粟国方言の敬語表現の研究」
- ・「沖縄県旧具志頭村の言語地理的研究」
- ・「琉球方言の語彙研究—沖縄県宮古島市平良字大神における海洋語彙について—」



ゼミの方言調査の様子

ゼミではフィールドワークにも出かけます！最近ではコロナも落ち着き、皆で瀬底島方言調査に行きました。

研究室からチュクトゥバ（一言）

先祖から連綿と受け継がれてきた方言は、その地域を映し出す鏡です。その地域特有の自然や気候、その地域の人々の生活、ものの見方は、やはりその地域のことばに反映されています。一集落の一地域語は、世界の言語数からすれば、小さな存在かもしれませんが。しかし覗いてみるとその地の風土に育まれた豊かなことばの世界が広がっています。

未来の子どもたちのためにもこの素晴らしいことばの世界を残しませんか。ゼミ生の多くは自らのルーツ、あるいは大好きな地域のことばを深く知りたい、そして残したいという思いで研究しています。

フィールドワークでは地域の方々との素敵な出会いや新たな発見が待っています！